歴史・文化資源を活かした「地域まるごとミュージアム」化実践プロジェクト

（ⅱ）フィールド・ミュージアム化のノウハウ蓄積
ミュージアム・マネジメントのノウハウ蓄積

奥谷町界隈の空き家実態調査

島根大学白潟サロンの運営

明治の松江 思いはせ

復刻絵はがき 市民が語る会

「美しい風景後世に」

戦前に発売された明治時代の松江を描いた「松江絵はがき」の復刻版や写真を見ながら当時の松江を語る会が二十六日、松江市天神町の島根大学白潟サロンであり、市民ら二十人が昔日の松江に思いをはせた。

同町内にある販売元の今岡ガクブチ店（今岡弘延社長）で昨春、絵はがきの題材となった写真のネガや印画紙計百四十枚が見つかり、保存状態が良かったことから絵はがきを復刻するとともに写真八十点を同サロンで展示した。

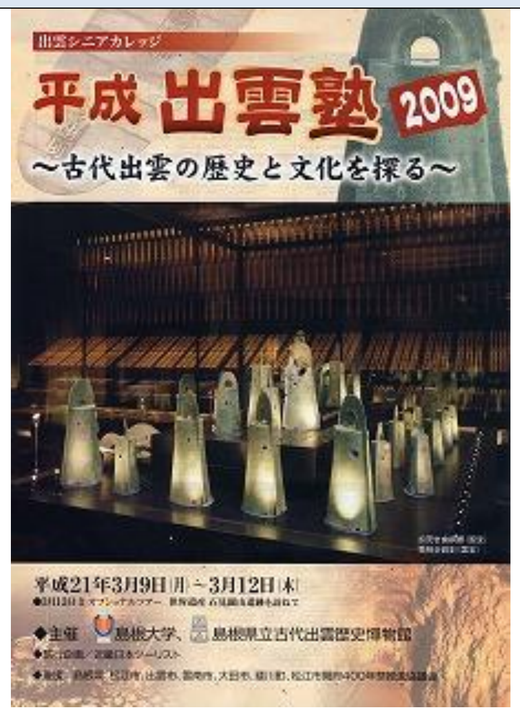
郷土史に詳しい市民が参加した会では、明治四十年に東宮殿下（後の大正天皇）が来松した写真から、「日露戦争に勝利するなど日本が急成長している時代。小学校では記念運動会や相撲大会が開かれており、そんな写真も出てくるのでは」との期待の声が上がった。

また、松江停車場や宍道湖畔、城山から写した七枚組の市街地全景の写真もあり「昔の松江は美しく、残すべき風情がある。よき時代の風景を後世に伝えたい」と、今後のまちづくりに役立てることを望む意見も出た。

明治時代の写真を見ながら昔の松江に思いをはせる参加者

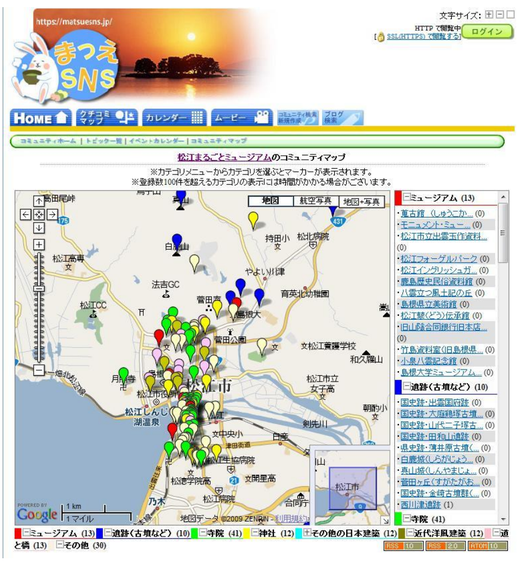
（ⅲ）アウトプット・実践

ヘリテージ・ツーリズム

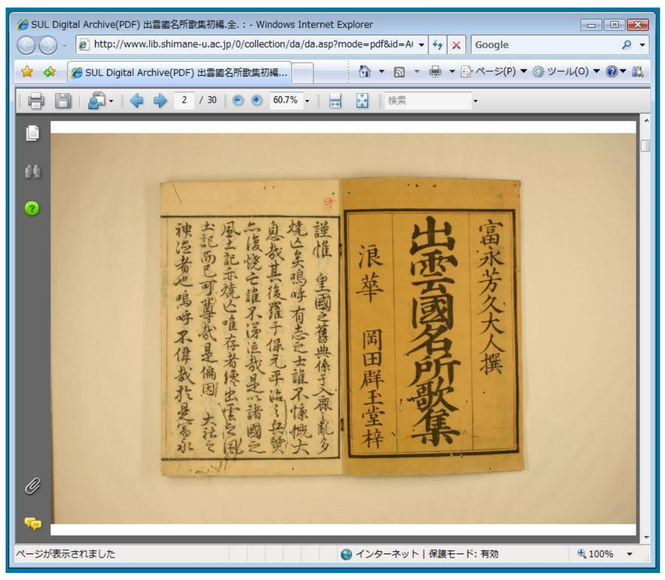


町歩きマップ

バーチャル・ミュージアム



松江SNS



デジタル・アーカイブ

モバイル通信

リアル・ミュージアム

アート展を催す古民家の下見をする高嶋敏展代表（左）

古民家・寺でアート展

古民家で現代アート展

奥谷(松江)の魅力発信

寺ではファッションショー

町並みアピール

市内芸術団体 来月6日から

松江市奥谷町の島根大旧奥谷宿舎周辺で、レトロな町並みと現代アートを楽しむ「奥谷タイムトンネル」を、市内の芸術団体が三月六―二十二日に開く。古民家でアート展、寺院で衣装パフォーマンスなどを催し、町の魅力再発見につなげる試みだ。

県内の芸術家でつくる、どこでもミュージアム研究所（同市西川津町、高嶋敏展代表）が企画。奥谷宿舎を中心とする南北各四百メートルのエリアが舞台になる。

アート展は空き民家二軒を会場に、写真や彫刻、工芸品などを展示する。入場無料。海岸に漂着したガラス片を、和室の畳一面に広げるアイデアも。桐岳寺では初日の六日、衣装デザイナーの時広真吾氏が本堂をステージにパフォーマンスを行う。計十二人のアーティストが参加する予定。入場料千円。

展示は期間中の金曜日―日曜日、午後一時―同六時まで。高嶋代表は「古民家とアートの融合する空間などを楽しんでもらい、町にアートの種をまくきっかけになれば」と期待する。

このほか、シンポジウムや百年後の想像画を描くイベントもある。問い合わせは高嶋代表（電話090・3333・1500）。

連続市民講座

「島根温故知新」

松江藩秘話生き生き

島大教授 実録体小説の魅力紹介

松江・市民講座

島根の人や町、仕事の歴史から地域の未来を考える島根大学ミュージアム市民講座が十四日、松江市白潟本町のスティックビルであった。近世文学を研究する法文学部の田中則雄教授が、実録体小説から見る松江藩の秘話について講演した。

赤穂浪士などのように江戸時代に発展した実録は、大名家のお家騒動や敵討ち、盗賊の悪行など当時の世間を騒がせた事件を小説化したもの。きわどい内容で幕府から禁令が出たため、写本で伝わっている。

田中教授は、松江藩に関係する四作を紹介。松江藩主の松平直政が十四歳で初陣に臨んだ時のエピソードを書いた「雲陽秘事記」では直政の豪傑ぶりが描かれ、妻と密通相手を討つ藩士を書いた「敵討雲陽実記」は近松門左衛門の浄瑠璃の原案となったなど、実録の魅力を語った。

田中教授は「実録は事実に虚構を交えて書かれたので史実ではない」としたうえで、「社会や人生における教訓が含まれ、事件や人物の本質を浮かび上がらせるなど大切な役割がある」と説明。

「松江にも生き生きとした人間の生きざまを描いた実録や貴重な書物が残っている。松江藩のことを考えるには、書物の存在にも目を向けてほしい」と話した。

松江藩の実録を紹介する田中則雄教授